江戸取図書館便り 12月1号



しはす - 肺走(極月・臘月) -



新着図書紹介 PART4

「なかなかに心をかしき臘月かな」(松尾芭蕉) 「大空のあくなく晴れし師走かな」(久保田万太郎)

*師走とは、「陰曆十二月の異称。また、太陽曆の十二月にもいう。極月」(広辞苑)。 * 「十二月(しは す)には沫雪(あわゆき)降ると知らぬかも梅の花咲く含(ふふ)めらずして」『万葉集』 八巻一六四八 紀少鹿女郎(きのをしかのいらつめ)」「語源説は、経をあげるために師僧が東西を馳せ走る月である ことから、シハセ(師馳)の義」(日本国語大事典)⇒師走の師は、もともとは僧侶のことです。







*写真左から、「寒さ増し色失うや停留所」 バス停(12月3日10:08)。「黄金色かがやく 蓮田師走かなあくなく晴れし不忍の池」上野 (11月27日15:00)。12月のディスプレイは、 「クリスマスの本」です(28日)。 バス停のすす き(28日10:51)。おすすめは、『クリスマス・キ ャロル』ディケンズ著。クリスマス前夜に幽 霊たちが見せてくれた物語です。(司書)













